臺灣日日新報 夕刊 九月二十五日 昭和十六年

皇軍、福臨鋪に進出
全線怒濤の南進
湘陰、平江間七十粁制壓

陸鷲大擧長沙急襲
巨彈の雨に全市火の海

中立法改訂斷行か
十月早々ルーズベルト大統領教書議會へ

長沙敵政府機關
衡陽へ移轉
動搖の市民續々と逃亡

敵の機雷原を啓開
海軍部隊新昌進出
西江遡江作戰戰果擴大

獨軍、レ市外廓へ
赤軍の抵抗力漸次減少

米武裝輸送船の
擊沈は當然
獨外務當局冷靜に語る

對獨戰聯合國會議
戰後の食糧確保案決議

米政府、全幅的支持
ワイナント米大使確言

敵食糧政策破綻
湖南は屈指の米産地

日本發送電と東北振興合併
期日は十二月

加藤駐佛大使
ダ副主席會談

修理佛印旅艦艦長
海軍へ謝意を表明

蘇側附近治安擾亂
國府軍を武裝解除

後藤保安課
長本社來訪

翼贊議員同盟
の決定事項
四委員會設置

人事

二國志
(598)
(出鷹の巻)
吉川英治作
矢野橋村畫

一下痢に
即効を誇るワカ末は
胃腸ともよくてもれない仲となりました
胃腸整菌殺力強
ワカ末

暑熱に頻発する悪性下痢に
赤チメン

公奉域職で力視い強
用作三て用一
1 眼を病治し
2 目を強く美しく
3 紫の線外を害防く
シヨクマズキにク
大學目藥一

化膿性疾患に
中耳炎
扁桃腺炎
化膿性外傷
直腸瘻
疔・癤等

時局愈よ緊張の秋
大空護る猛訓練
あす島都と近郊一圓

想定要旨

一、昭和○年○月○日、三ケ月前の勃発中立ケリーが敵になる戦闘に入れり、英國の戦争努力が相當有力にして太陽と共の同盟國内にあり

二、帝んがべき情勢に於ては我が帝國に対しては英國の大戦争を以て英の盟邦と共に戦争を開始せり、英の後の戦況は不明なり

防護室の虎の巻
近くパンフレットとして公布

泉州も地獄相
駐屯の蔣介石軍は神經衰弱
惡疫の猖獗と生活難

學童の待避訓練
新竹市では來月中旬實施

一旦緩急の際 我等も起たん
誓ひも固き稻江義團

絹製の時計
奉公班回覽板
奉公會から
豆新聞刊行

今年は豊作
新竹の二期作
そろ〳〵出穂

集れ滿洲開拓の尖兵
得難き文獻もの上梓

チユウ公生態描寫
高原も肥沃地に
内地の各高原へ鍬を入れる

官吏教養講習會

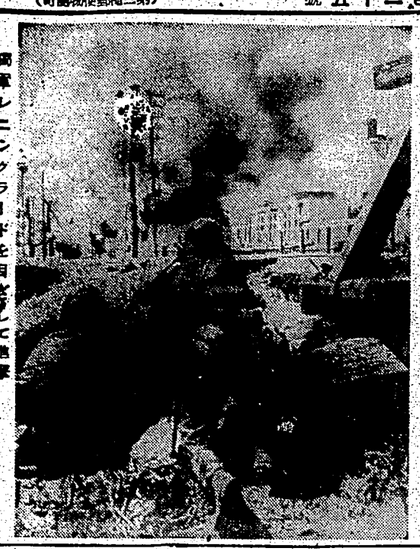
方委聯盟結成
の準備委員會

高雄港擴張工事
商業港から工業港へ一大飛躍
第一期工事着々進捗

生活刷新の評定
臺北州下市部生活部長會議

問題の小說
識訪三郎氏の傑作小說
「家」は益〻大評判です
キング十月號發表の問題作!

肺病 ろく まく 心配と無用
肺病 ろく まく 心配と無用



臺灣日日新報

重慶殘黨の暗躍も空し 轉換期ゆく泰華僑

對日提携の機運熟す

【泰國特派員發】泰國在留華僑問題に關しては從來とかく排日的色彩濃厚であつたが、最近に至つては對日提携の氣運漸く熟し、重慶殘黨の暗躍も空しく轉換期ゆく泰華僑の姿を現出するに至つた。

泰國在留華僑は約二百萬と稱せられ、その大部分は福建、廣東兩省より移住し來つたものであるが、その中には抗日思想濃厚なる者も少なからず、從つて重慶政權の對日戰線擴大に伴ひ、重慶側の對泰工作も漸次活潑化し、重慶側の指令に基く抗日團體の組織化も進められ、抗日思想の普及宣傳に努めてゐたが、最近泰國政府の對華政策が日本との提携を基調とするに至つたことは、泰國在留華僑の抗日思想に大きな影響を與へ、從來の抗日團體は殆んどその活動を中止するに至つた。

泰國政府の對華政策の轉換は、昨年十二月日泰攻守同盟條約の締結を契機として、日泰兩國間の經濟提携が急速に進められ、日本の對泰經濟進出が活潑化するに伴ひ、從來泰國經濟界を支配してゐた華僑の地位が漸次日本人に取つて代られる傾向を生じ、從來華僑の獨占的地位であつた米穀、製材、精米、製糖、製粉、製氷、ゴム、セメント、ビール、煙草、マッチ、織物、醫藥品、ガラス、製紙、ペンキ、製鐵、造船、鑛業、銀行、保險、倉庫、運輸、土地建物賃貸業等の各種經濟部門に日本人の進出が著しくなつた。

泰國政府の對華政策の轉換は、從來泰國經濟界を支配してゐた華僑の地位を脅かすものとして、華僑の間に大きな不安を與へ、從つて從來の抗日思想は急速に後退し、抗日團體の活動は全く影を潜めるに至つ

成層圏 (76)

廣津和郎作
大貫松三畫

「おお、あそこに立って、あや子を待つてゐた」

直ぐそこらいふ感覚が脳の面に来たら、あや子の姿を待つてゐたのを忘れなくて帰るうちになつて田に来たが、いよいよ帰るとなると分の心にいつ

臺灣雜記 春山行夫 (上)

石炭

基隆から基北にでる炭の五分の一は瑞芳炭礦、炭礦からきたものにとうつて基隆に目をひく量の一つだしするその五分がボロボロの粉炭で、大きな塊のふつかないのは基隆港の名物だ。百噸位の入口に石炭が立方位の大きな山積がどつかり置いてゐるのを見させていたにも心配ないが、ただ基隆の石炭を積むさいに、石炭の塊を積むさいに、石炭の塊を積むさいに、石炭の塊

臺灣日日新報 (第二夕刊) (明治廿一年五月九日第三種郵便物認可) 昭和十六年九月二十六日 (金曜日) 第一万四千九百二十五號 (一)

臺灣昌新報

日本夕刊共八頁

敵廿六、四十七兩軍
我包圍網下に陷る
我大鵬翼陣刻々南方へ

【南京○○初發】二十五日南部戰線の三方面の激戰に於ける我軍の包圍網は愈々緊縮されつゝあるが敵第九戰區指揮官薛岳が重慶方面に於ける軍事會議に參加するや敵は我軍の包圍を突破して退路を開かんと必死の反撃を開始した模樣で二十四日夜來各地に於ける敵の反撃は一層激烈を加へ殊に我が包圍網の最も強固なる贛江南岸地區に於ける敵の反撃は凄まじく二十五日朝來敵は我が包圍網の一角を突破して一部は既に贛江南岸に渡河を開始したが我軍は之を捕捉殲滅すべく猛攻を加へつゝあり敵は遂に退路を斷たれ袋の鼠となるに至つた

【南京○○二十五日發同盟】二十四日夜來贛江南岸地區に於ける敵の反撃は一層激烈を加へ殊に

社說

素朴なる低物價政策の修正
新なる戰時計畫物價政策へ

十月十八日を期限とする九・一八停止令の延期が確實であると傳へられるが、我國の戰時經濟體制を強化すると共に、國民の戰時生活を安定せしめるためには一考、二考を要する、何となれば從來の我物價政策の基調は國際關係の變化に基因する物價インフレの防止策として主として物價を國際水準に直つた我物價關係の是正と國際收支との調和のうへに立つてゐたのであるが、國際の情勢が重大化し經濟戰體制の强化が緊要の問題となつた今日、從來の我物價政策の基調を變更すべきや否やに關しては一考、二考を要する、何となれば從來の我物價政策の基調は國際關係の變化即ち國際收支の調和の上に立つに基因するからである。

一

從來物價の調整インフレ的政策の如く國際收支との調和の上に物價の引上げが國家的見地から是認されるとしても、それが無制限的引上げであつてはならないことは勿論である。從つて物價の引上げが國際收支の調和を破壞するが如き場合には、物價の引上げは嚴に抑制されなければならない。

從來物價の調整インフレ的政策の基調は

維新史の全巻完成

頓宮會計檢査院長官に 御慰勞の御言葉

【東京發同盟】多年明治維新史編纂會の總裁として編纂事業に盡瘁し來つた故公爵徳川家達氏の薨去に際し、頓宮會計檢査院長官は二十五日午後二時半から赤坂の徳川邸に參内、天皇陛下に謹んで拜謁を賜つた

【東京發同盟】明治維新の史的研究並に史料の蒐集編纂を目的として明治十四年五月十日太政官に設置された修史局は、その後修史館と改稱されたが、明治二十三年帝國憲法發布の大典を擧げられるに當り、その事業の一段落を告げたので、同年十二月二十四日を以て廢止された、その間實に十年有半、この間に於ける修史局總裁の顯職は、有栖川宮熾仁親王殿下、三條實美公爵、岩倉具視公爵、徳大寺實則公爵、伊藤博文公爵、山縣有朋公爵、三條實美

各地綜合版

保護事業の整備擴充

事業の實績を見揚する方策など協議
來る廿九日 臺南州司法保護事業大會

【臺南電話】犯罪の防止、人心の善導に關する司法保護事業は從來、本島人の間に於ては十分に其の趣旨が徹底せず、從つて其の發展も遲々たるものがあつたが、最近に於ては一般の認識も漸く深まり、各地に於ける保護團體の活動も漸次活潑化の傾向を示すに至つた、臺南州に於ても從來、州下各地に於ける保護團體の活動は必ずしも十分とは言ひ得ず、從つて其の實績も擧らなかつたが、最近に於ては各團體共に漸く其の活動を開始するに至つた、依つて州當局に於ては今回左記の如く州下保護團體の實績を擧げ、且つ其の活動方針を協議する爲め、來る廿九日午前十時から臺南市末廣町州廳樓上に於て州下保護事業大會を開催することゝなつた、尚ほ當日は午前十時から臺南市民館に於て一般市民に對する保護思想の普及宣傳講演會を開催する筈である

記

一、時間　午前十時から午後四時迄
二、本州下保護團體の整備擴充の實績と其の將來の方針如何（各團體代表者）
三、本州下保護團體の整備擴充に關する具體的方策如何（各團體代表者）
四、其の他保護事業に關する必要事項

【臺南電話】臺南州下に於ける保護團體は從來、臺南市の臺南保護協會、新化郡の新化保護協會、北門郡の北門保護協會、佳里郡の佳里保護協會、新營郡の新營保護協會、麻豆郡の麻豆保護協會、學甲郡の學甲保護協會、白河郡の白河保護協會、關廟郡の關廟保護協會、玉井郡の玉井保護協會、楠梓郡の楠梓保護協會、旗山郡の旗山保護協會、屏東郡の屏東保護協會、東港郡の東港保護協會、恒春郡の恒春保護協會、潮州郡の潮州保護協會、東石郡の東石保護協會、嘉義郡の嘉義保護協會、斗六郡の斗六保護協會、虎尾郡の虎尾保護協會、北斗郡の北斗保護協會、員林郡の員林保護協會、北斗郡の北斗保護協會、員林郡の員林保護協會、北斗郡の北斗保護協會、員林郡の員林